



TITLE:

II.基研運営委員会報告

AUTHOR(S):

CITATION:

II.基研運営委員会報告. 物性研究 1968, 10(1): 62-65

ISSUE DATE:

1968-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/86554>

RIGHT:

(牧) Grouping の発生源でもある。他の者にはわからないということが必要。

(高木) 錬金術の時代に秘伝を弟子だけに考えるのに似ている。

(田中) 自然なことでもある。

○ 将来計画関係

(湯川) 基研の計算機のこととも原子核将来計画の重要な一環であった。

(高木) 勿論原子核将来計画から落ちているわけではなく、進行中であるが、当初から見ると、事情も変わってきたので、ある程度検討して修正するかも知れない。

2. アトム研研究員の選考

I (奨学生的でないもの)

選考の結果次のように決定した。

山本 義隆 (東大 理 DC)	1 カ月
和田 正信 (日大 講師)	1
新関 駒二郎 (東北大 理 DC)	3
川部 健 (岡大 助手)	1
岡井 末二 (新潟大 助教授)	2 (1 + 1)
紺野 公明 (日大 DC)	1

補欠 (次期運営委員会にあらためて応募して頂く。)

渡辺 敬二 (名大 理 助手)

金子 孝夫 (名城大 理 講師)

各々の滞在費の細目の検討は協議員会 (所員会) をお願いする。

II (奨学生的なもの) 期間は1年

決定 赤石 義紀 (京大 理 DC 修了)

矢野 忠 (広大 理 “ ”)

3. 湯川奨学生選考

決定 田原 博人 (立大 理 DC 修了)

斎藤 栄 (北大 “ “ “ ”)

康 舜沢 (京大 理 DC 4 2 年 修了)

資 料 Ⅱ

なお、アトム型Ⅱ，及び湯川奨学生決定者のうち，辞退者が生じた時は次の順位で補欠を繰り上げる。

1. 曾我見 郁夫（現在 アトム型）
2. 謝 世 哲（ゝ 湯川奨学生）
3. 中 村 淑 子（東大・理・DC，修了）

後日（3月26日現在）一部繰り上げ，変動が生じた。

赤 石 義 紀 → 学振決定のため辞退

斎 藤 栄（湯川奨学生） → アトム型

曾我見 郁夫 … 学振決定

謝 世 哲 … 湯川奨学生

4. 組織助手について

（湯川） 7名の応募者があり，選考を基研に任されたが，片岡韶子（奈良女子大・理・卒，京大・理・化学・MC在学）（3月修了）に決定した。

5. 昭和43年度併任教授について

昨年通り，本年も下記の方々をお願いすることになった。

朝永振一郎，早川幸男，確井恒丸，高木修二，小谷正雄，小林 稔，
松原武生，片山泰久，井上 健， 以上 9名

6. 昭和44年度概算要求について

○研究部門（統計物理研究部門）の増設

43年度通りそうであったが，財政的理由でだめになった。44年度は見込みがある。

○特別事業費

電子計算機

昨年まではIBM360-67型借上を要求してきた。

今年からは少し方針を改めた方がよいかも知れない。

〔意見〕（玉垣） 今までの要求理由には，共同利用研の共同利用として，
というニュアンスが強い。

(牧) 基研の project に密着した型ということにしても、共同利用とは矛盾しないと思う。

(田中) 使い方を限定して分野が色々というと混むことになる、分野を限定して色々なことに使うというやり方が良い。ある程度、資料センター的なことも有益と思う。

(松田) ここに関係している分野といっても相当に広い。

遊ばせるということは、相当意識的にやらねば難かしいし、折角買って、なぜ遊ばせるのかと、非難されるだろう。

(高木) いわゆる共同利用と同じ logic ではない。東大センター、京大センターができては足りないが、それを無関係で良いと思う。

(湯川) 計算機そのものは特別なものでなくても、よいというわけか。

(高木) rental 2 億円などというのでなくて、中型位で良い。

(松田) 大型センターと complementary な特殊なものというのは？

(玉垣) 小さすぎても困る。Min. がある。Sub Unit を作り得るもの、大きなものが欲しければ、結べばよいというもの。

(田中) 利用の仕方の限定でなく、部門の限定で良いのではないか。

(松田) 何でもできるというのなら、user が殺倒してきて、計算機委員に圧力がかかるだろう。

(湯川) 具体的には決定しにくいので、この程度でご意見をもとにして基研で案を作るということにしたい。

○設備費

共同利用研究員宿舎

白川学舎も老朽してきたので、早く実現したい。

○客員研究員、長期研究員旅費増額。

○国際会議出席渡航費、外国人招聘費要求。

(牧) 客員部門の増設を要求する方が、員等旅費の要求よりやり易いのなら、それを考えてもよいのではないか。

(事務長) 教官の定員減が言われている位だから、やはり従来の客員研究員で押す方がよい。

(朝永) 客員は、長期・短期研究員とどちらがうかと言われぬか。

資 料 Ⅱ

(湯川) 流動研究員の枠をここに付けることは？

(坂田) 文部省では1,000万円は増加した。

(朝永) 学術会議との関係が、ややこしい、…。

7. トリエステの理論物理学センターについて

(湯川) IAEAのスポンサーで International Center for Theoretical Physics というのが、トリエステにある。私もその Scientific Council になっているが、センターの目的は後進国の科学の向上のため、理論物理学者を養成することが第一というので、先進国の学者の協力を求めている。

2月初め、その Meeting が行われ、早川氏に代りに行って頂いた。報告の概要は次のようなことである。

- 。先進国がセンターを、財政面も含めて援助する方向に動いて欲しい。東欧諸国のもっているのとちがったカテゴリーで、先進国で Federated Institute をつくって、そこをチャンネルに活動することにしたいが、各、先進国で可能性を検討してほしい。
- 。物性物理の方が直接産業などに役立つ面が多いという意味で、盛んにしたいという意向があるが、色々な方面に通じている指導者が得にくいという問題がある。

その他いくつかあげられているが、さし当り基研でどうするか、と考える段階ではないので、今日はこの程度の報告に終る。今後、必要に応じて相談したい。

又、6月にセンター主催のシンポジウムが予定されていて、数名の招待がきている。林忠四郎氏が行かれると思うが、物性の方もどなたか行って頂くと良いと思う。

以 上

(文責 寒 竹 康 江)